

3 洪水対策

-
- (1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知
 - (2) 河川はん濫時の避難場所の事前決定
 - (3) 事前に決めている河川はん濫時の避難場所
 - (4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由
 - (5) 河川はん濫による浸水被害の際の対処
-

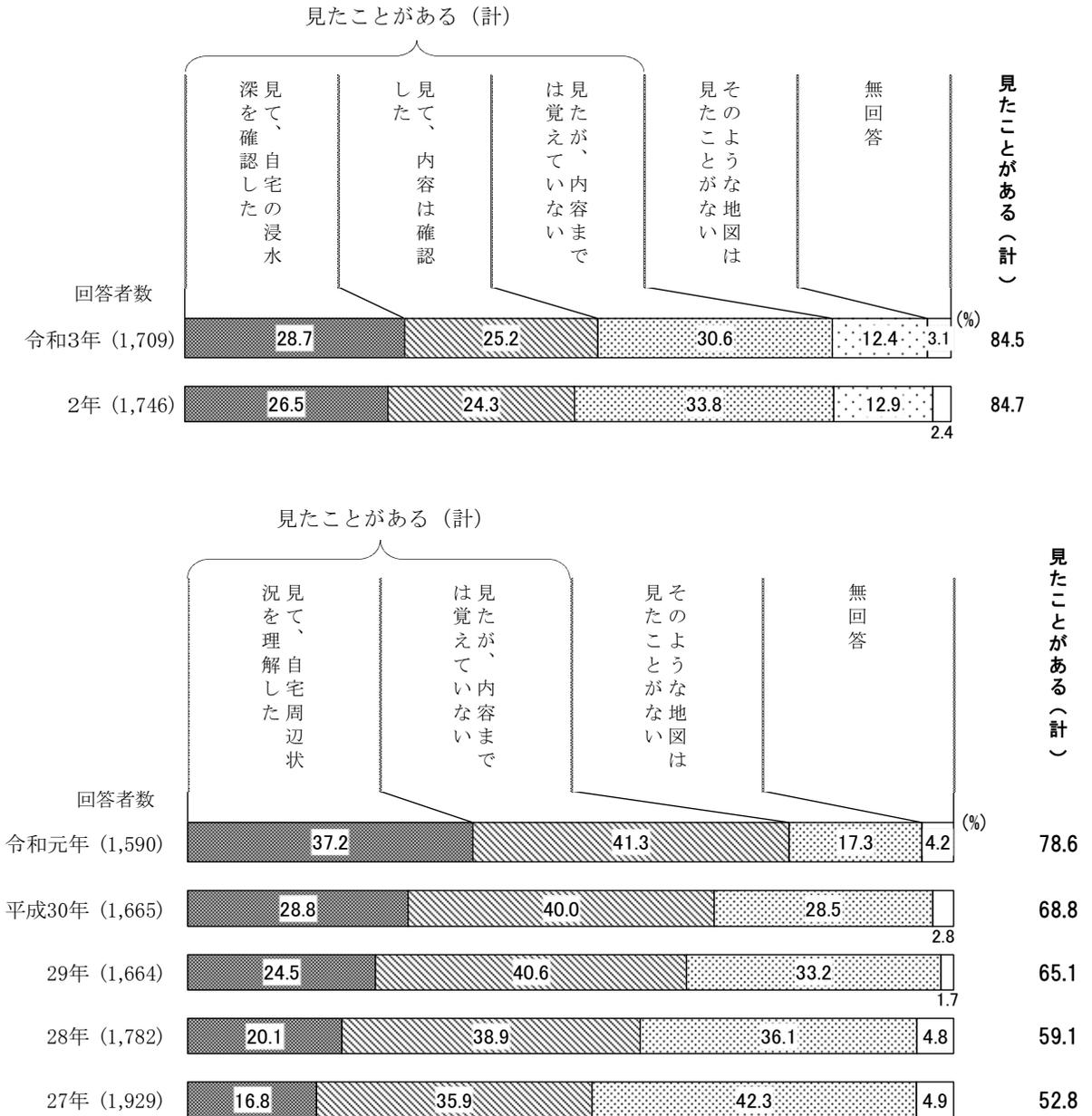
3 洪水対策

(1) 「足立区洪水ハザードマップ」の認知

■ 「見て、自宅の浸水深を確認した」は微増して3割弱

問10 あなたは、足立区が発行（区のホームページにも掲載）している「足立区洪水ハザードマップ」を見たことがありますか（○は1つだけ）。

図3-1-1 経年比較／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



※ 令和2年度から、令和元年までの「見て、自宅周辺の状況を理解した」が、「見て、自宅の浸水深を確認した」と「見て、内容は確認した」に2分割された。

※ 「見て、自宅周辺の状況を理解した」は、平成27年度は「見たことがあって、自宅周辺の状況を理解した」。

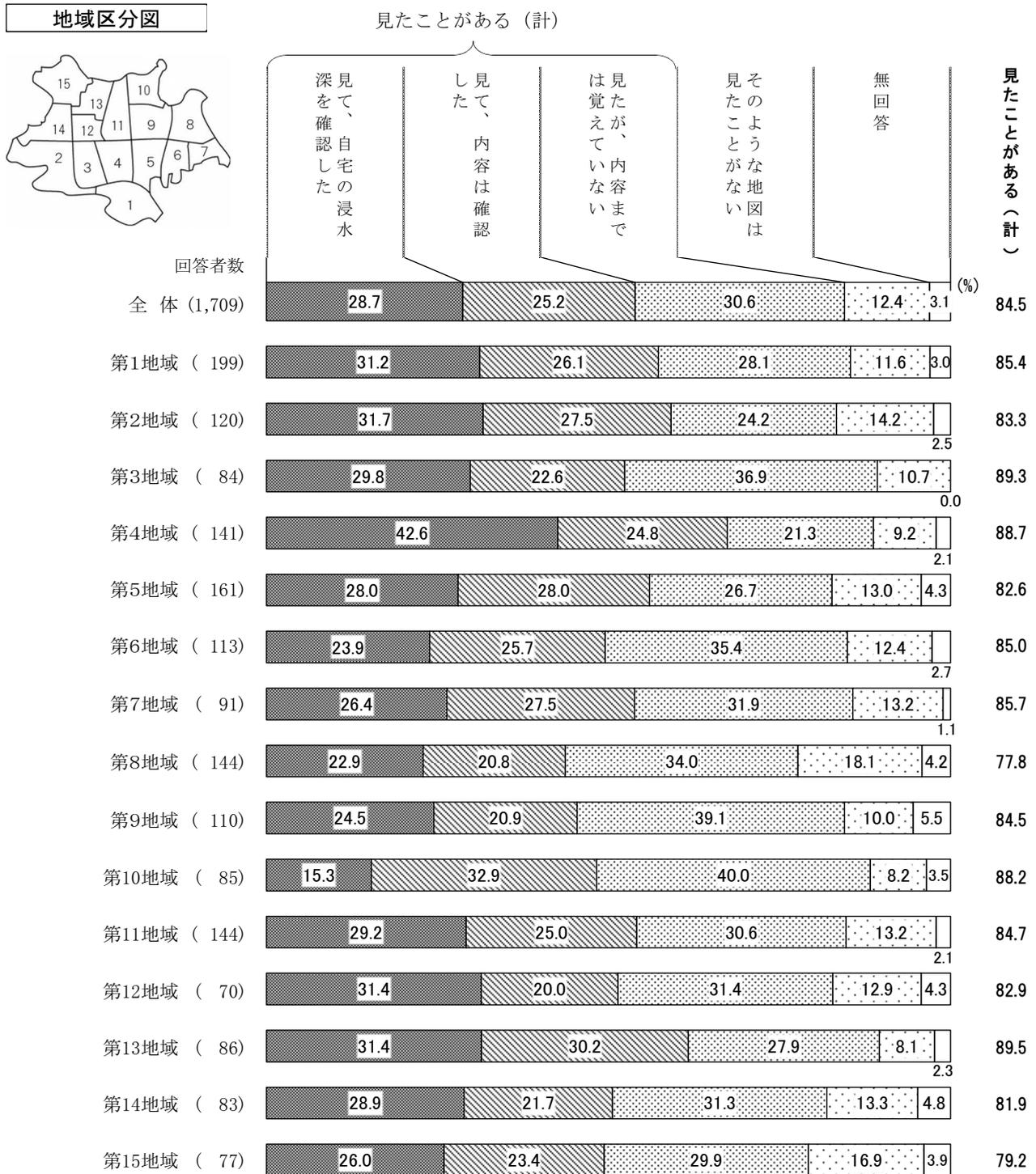
第3章 調査結果の分析〈洪水対策〉

『足立区洪水ハザードマップ』について、「見たが、内容までは覚えていない」が30.6%で最も高く、次いで「見て、自宅の浸水深を確認した」(28.7%)、「見て、内容は確認した」(25.2%)となり、これらを合わせた【見たことがある】は8割台半ばを占めている。一方、「そのような地図は見たことがない」は12.4%となっている。

経年でみると、「見たが、内容までは覚えていない」(30.6%)が前回の令和2年調査(33.8%)から3.2ポイント減少し、「見て、自宅の浸水深を確認した」が前回調査(26.5%)から2.2ポイント増加した結果、【見たことがある】では特に変化はなかった。

地域別でみると、「見て、自宅の浸水深を確認した」は第4地域で42.6%と最も高く、第10地域で15.3%と最も低い。一方、【見たことがある】は第13地域で89.5%と最も高く、僅差で第3地域(89.3%)が続いている。第8地域は77.8%で最も低くなっている。

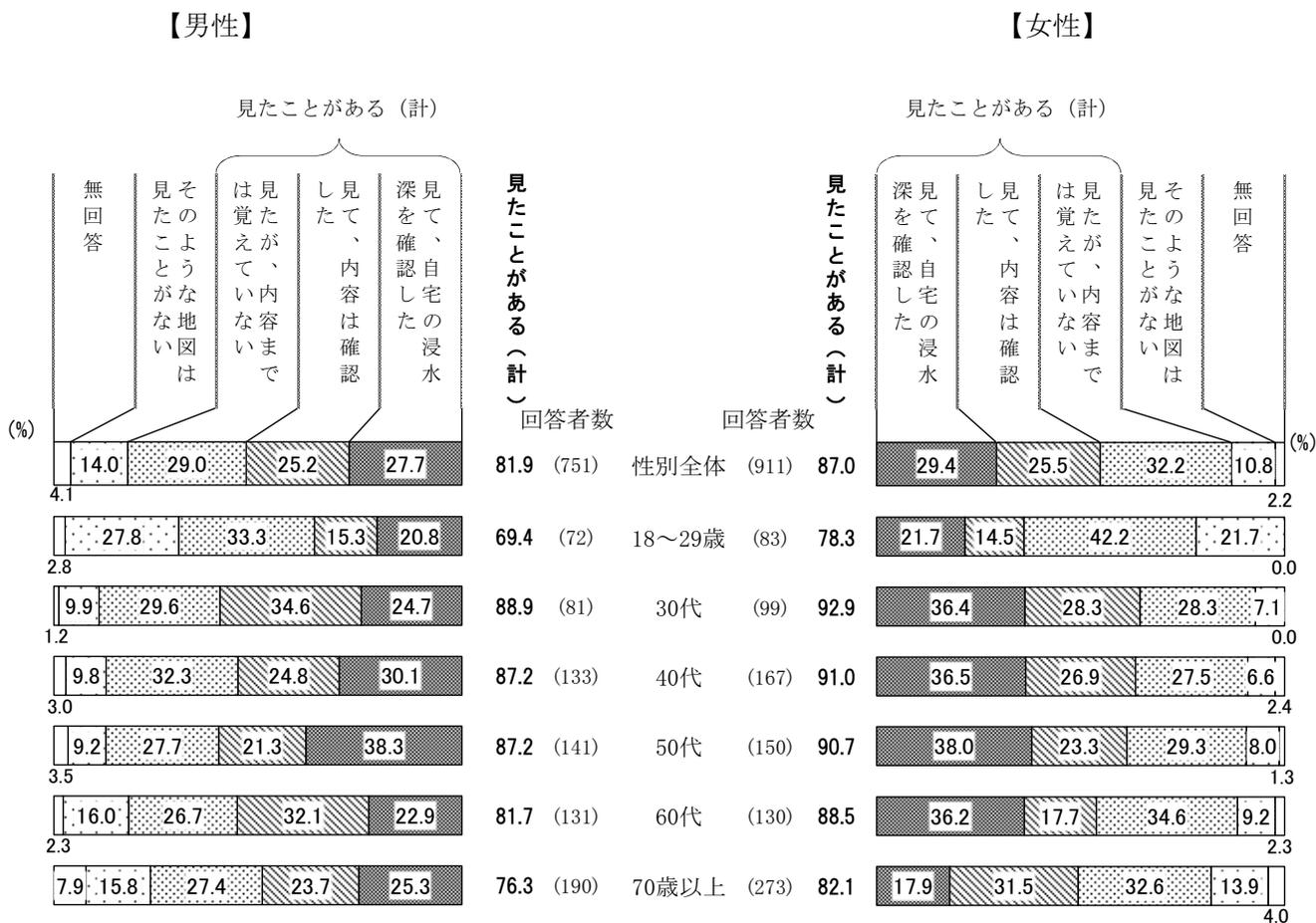
図3-1-2 地域別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知



性別でみると、【見たことがある】は女性（87.0%）の方が男性（81.9%）より5.1ポイント高くなっている。

性・年代別でみると、「見て、自宅の浸水深を確認した」は男女ともに50代で4割弱と高くなっており、女性の70歳以上が17.9%で最も低くなっている。【見たことがある】は女性の30代～50代で9割を超えて高く、男性の18～29歳で約7割と最も低くなっている。

図3-1-3 性別、性・年代別／「足立区洪水ハザードマップ」の認知

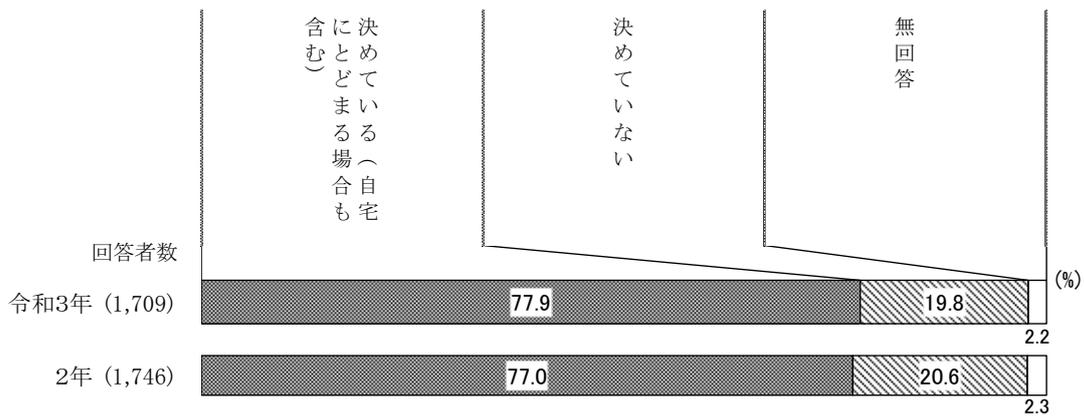


(2) 河川はん濫時の避難場所の事前決定

■「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」が8割近く

問11 あなたは、河川がはん濫する恐れがある場合、避難する場所を事前に決めていますか（○は1つだけ）。

図3-2-1 前回調査比較／河川はん濫時の避難場所の事前決定



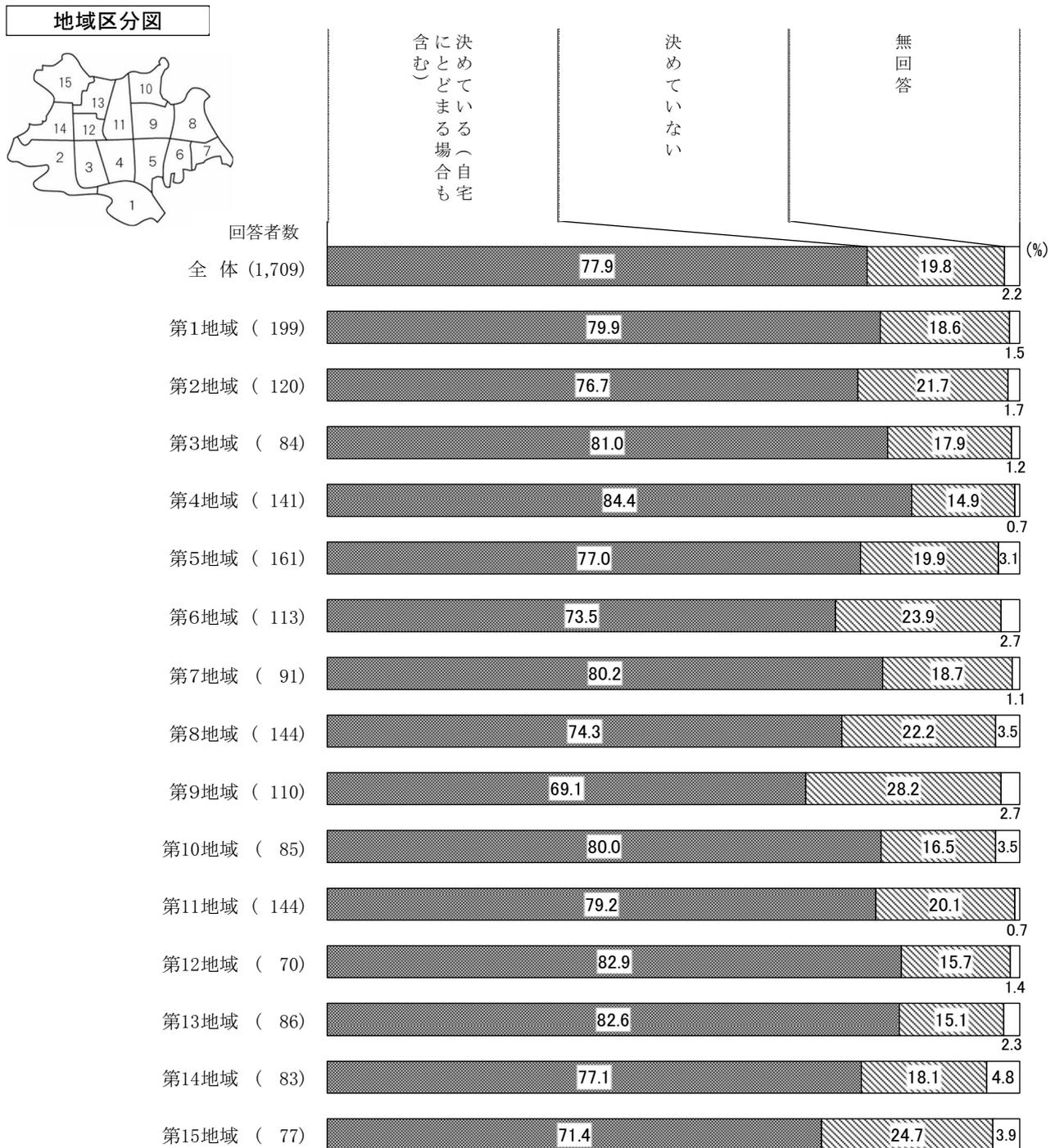
河川はん濫の恐れがある場合に避難する場所を事前に「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は77.9%を占めており、「決めていない」は19.8%となっている。

経年でみると、本設問は前回の令和2年調査から新設されているが、回答割合に大きな違いはみられない。

第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

地域別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は第4地域が84.4%と最も高く、次いで、第12地域（82.9%）と第13地域（82.6%）が8割強で高くなっている。一方、第9地域で69.1%と最も低くなっている。

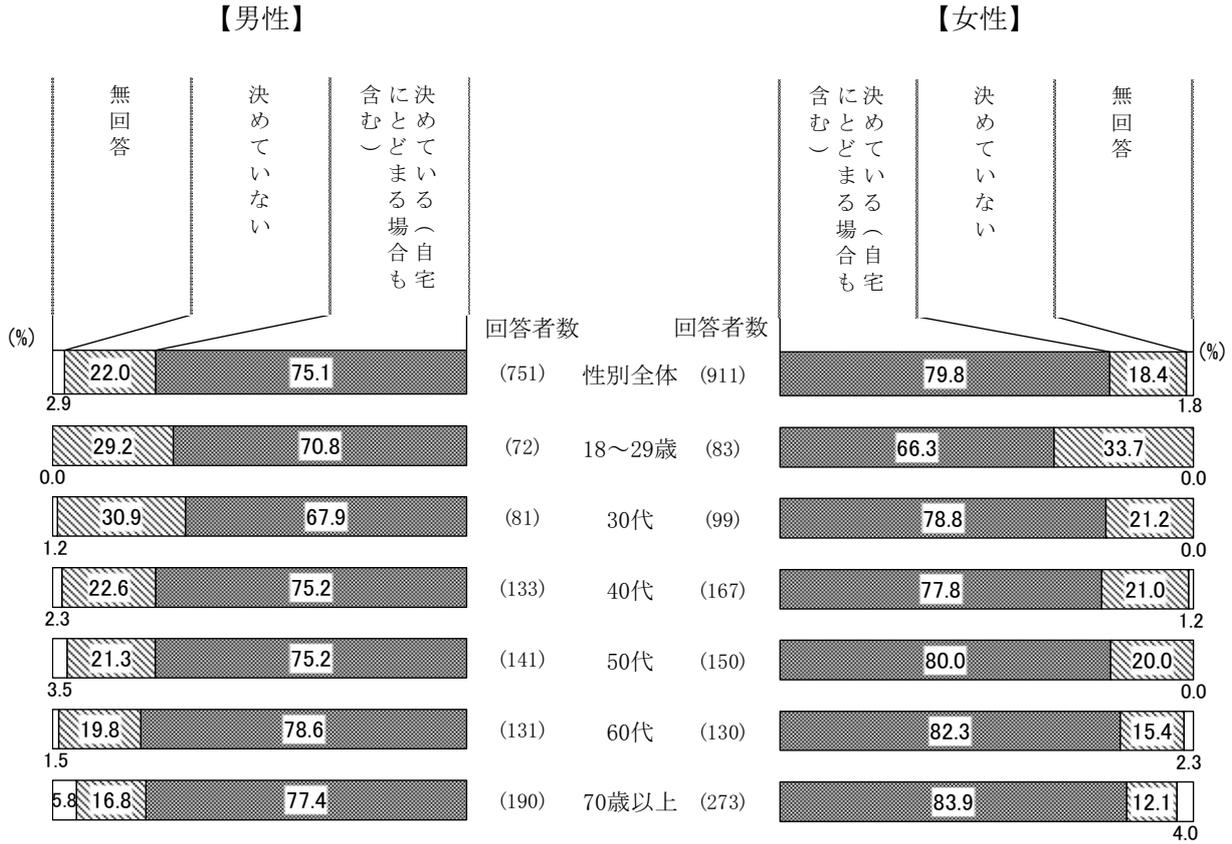
図3-2-2 地域別／河川はん濫時の避難場所の事前決定



性別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は、女性（79.8%）の方が男性（75.1%）より4.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」は女性の70歳以上（83.9%）で最も高く、女性の18～29歳（66.3%）で最も低く、男女ともおおむね年齢が上がるほど割合が高くなっている。

図3-2-3 性別、性・年代別／河川はん濫時の避難場所の事前決定

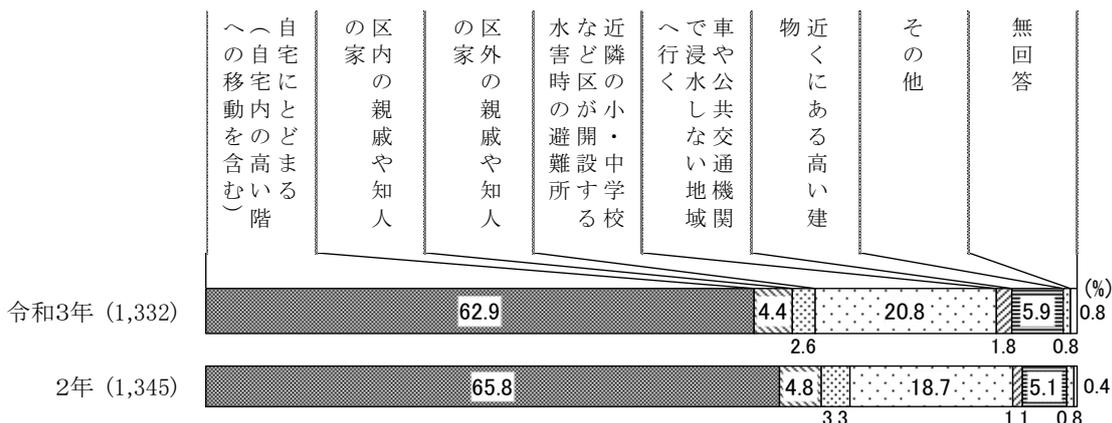


(3) 事前に決めている河川はん濫時の避難場所

■「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」が6割強

問11で「1 決めている（自宅にとどまる場合も含む）」とお答えの方に
 問11—1 あなたが、避難する場所はどこですか（○は1つだけ）。

図3-3-1 前回調査比較／事前に決めている河川はん濫時の避難場所

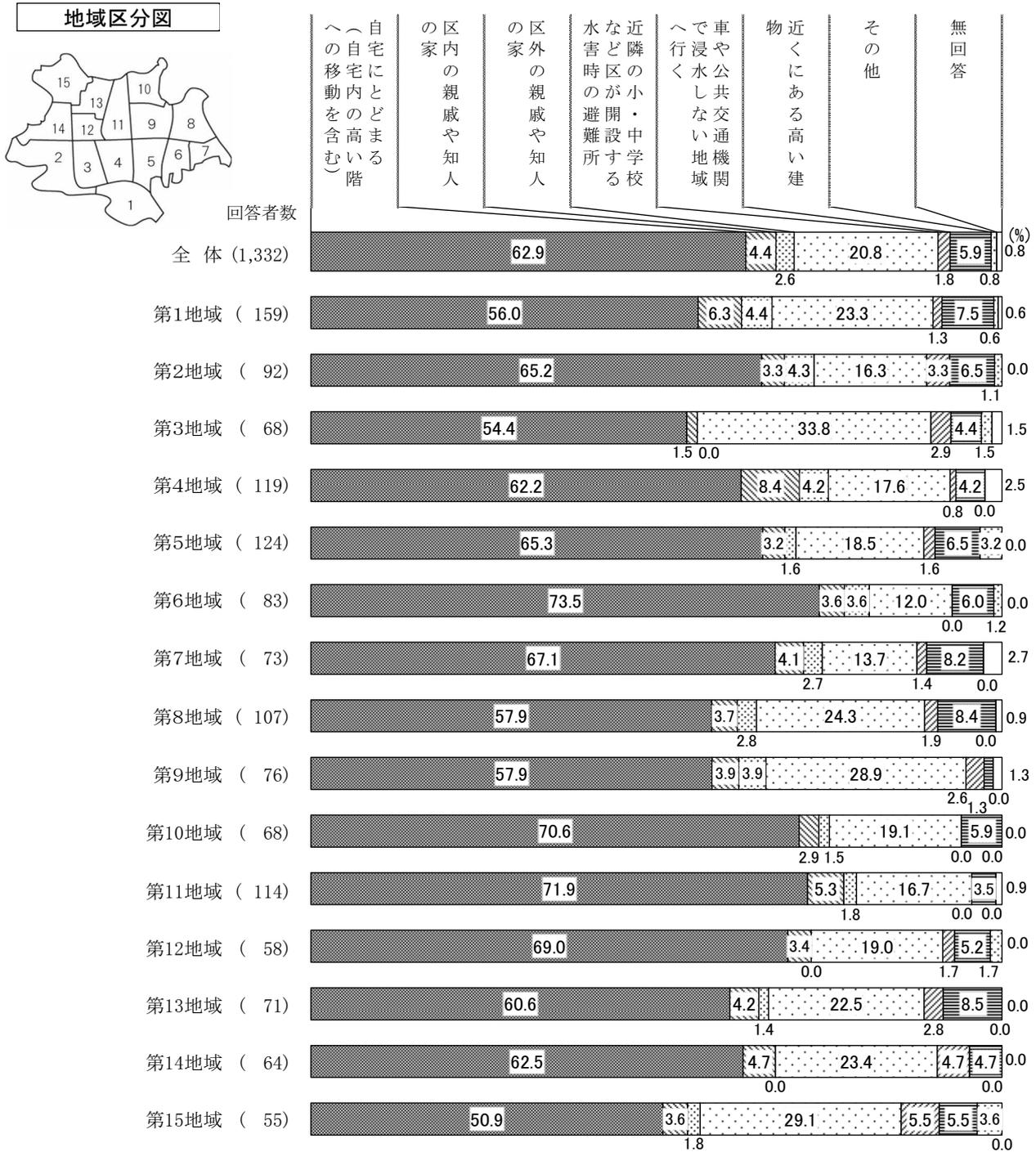


河川はん濫の恐れがある場合に避難する場所を事前に「決めている（自宅にとどまる場合も含む）」と回答した人に、事前に決めている避難場所を聞いた結果（単数回答）は、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」が6割強と最も高く、次いで「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」が2割で続き、「近くにある高い建物」（5.9%）、「区内の親戚や知人の家」（4.4%）、「区外の親戚や知人の家」（2.6%）などはいずれも1割未満となっている。

経年でみると、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」は前回の令和2年調査（65.3%）から2.9ポイント減少し、逆に「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」（前回18.7%）が2.1ポイント増加している。

地域別にみると、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」は、第6地域で73.5%と最も高く、次いで第11地域（71.9%）と第10地域（70.6%）が7割台で続き、第15地域で50.9%と最も低くなっている。「近隣の小・中学校などが開設する水害時の避難場所」は第3地域が33.8%で最も高く、第6地域が12.0%で最も低くなっている。

図3-3-2 地域別／事前に決めている河川はん濫時の避難場所

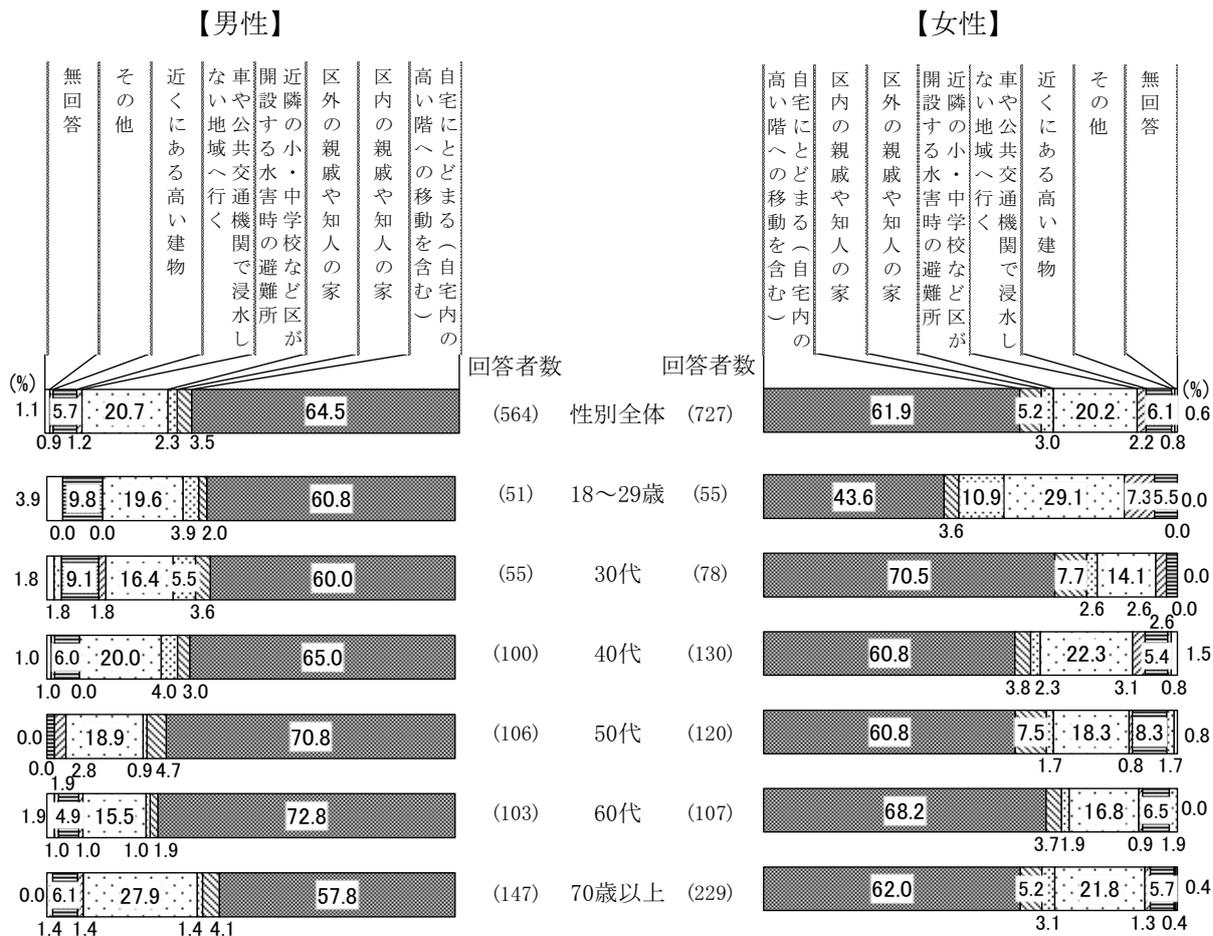


第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

性別にみると、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」は男性（64.5%）の方が女性（61.9%）より2.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「自宅にとどまる（自宅内の高い階への移動を含む）」は男性の60代（72.8%）、50代（70.8%）、女性の30代（70.5%）で7割台と高く、女性の18～29歳で43.6%と他の層に比べて特に低くなっている。一方、「近隣の小・中学校など区が開設する水害時の避難所」では女性の18～29歳が29.1%で最も高くなっている。

図3-3-3 性別、性・年代別／事前に決めている河川はん濫時の避難場所



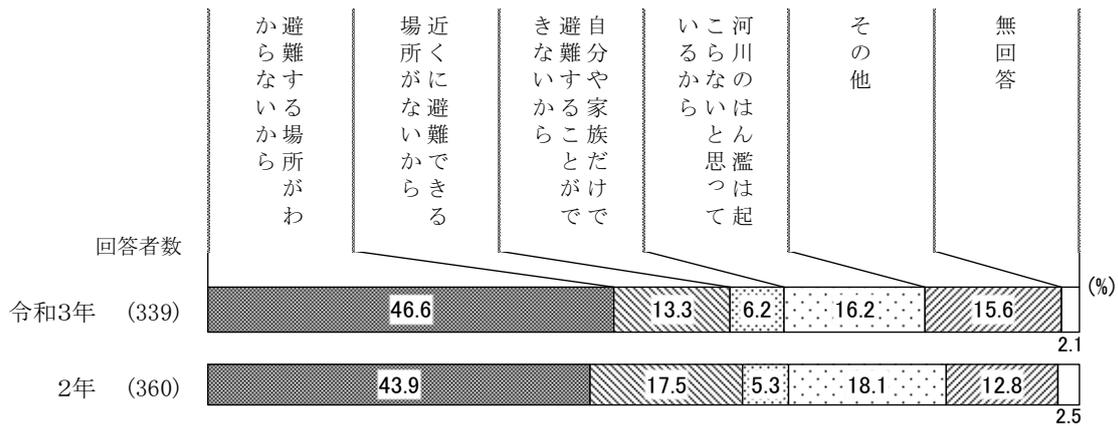
(4) 河川はん濫時の避難場所を決めていない理由

■「避難する場所がわからないから」が4割台半ばで微増

問11で「2 決めていない」とお答えの方に

問11-2 避難する場所を決めていない理由はなんですか（○は1つだけ）。

図3-4-1 前回調査比較／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由



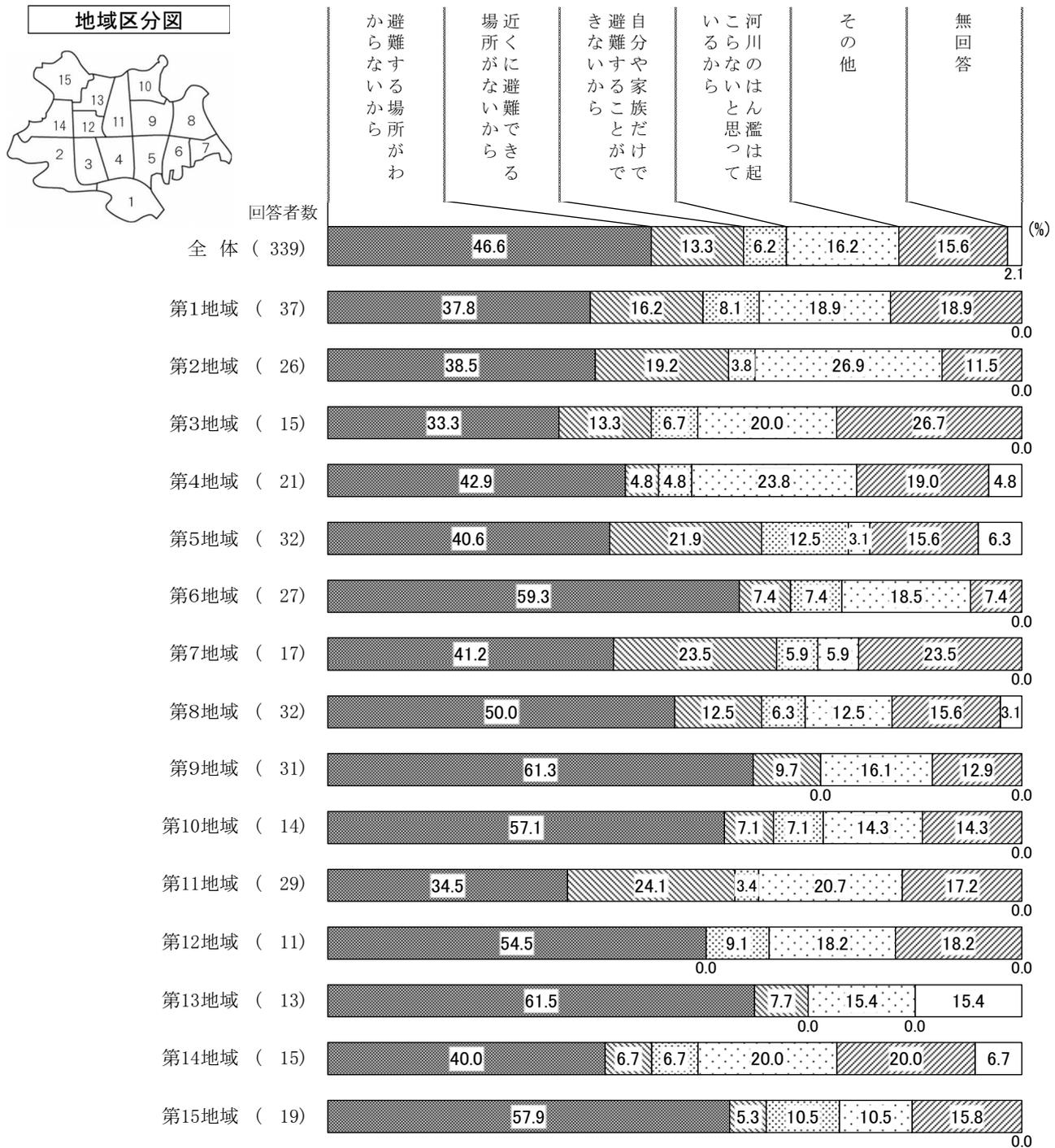
河川はん濫の恐れがある場合に避難する場所を事前に「決めていない」と回答した人に、事前に決めていない理由を聞いた結果、「避難する場所がわからないから」が4割台半ばを占めて最も多く、次いで「河川のはん濫は起こらないと思っているから」(16.2%)、「近くに避難できる場所がないから」(13.3%) などとなっている。

経年でみると、「避難する場所がわからないから」は前回の令和2年調査(43.9%)から2.7ポイント増加し、逆に「近くに避難できる場所がないから」(前回17.5%)が4.2ポイント減少している。

第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

地域別にみると、大半の地域でサンプル数が少ないことからあくまで参考値ながら、「避難する場所がわからないから」は第13地域、第9地域、第6地域で6割前後と高く、逆に、第3地域、第11地域、第1地域、第2地域で3割台と低くなっている。また、「近くに避難できる場所がないから」は第11地域、第7地域、第5地域で2割台と高く、逆に、第4地域、第15地域で5%前後と低くなっている。

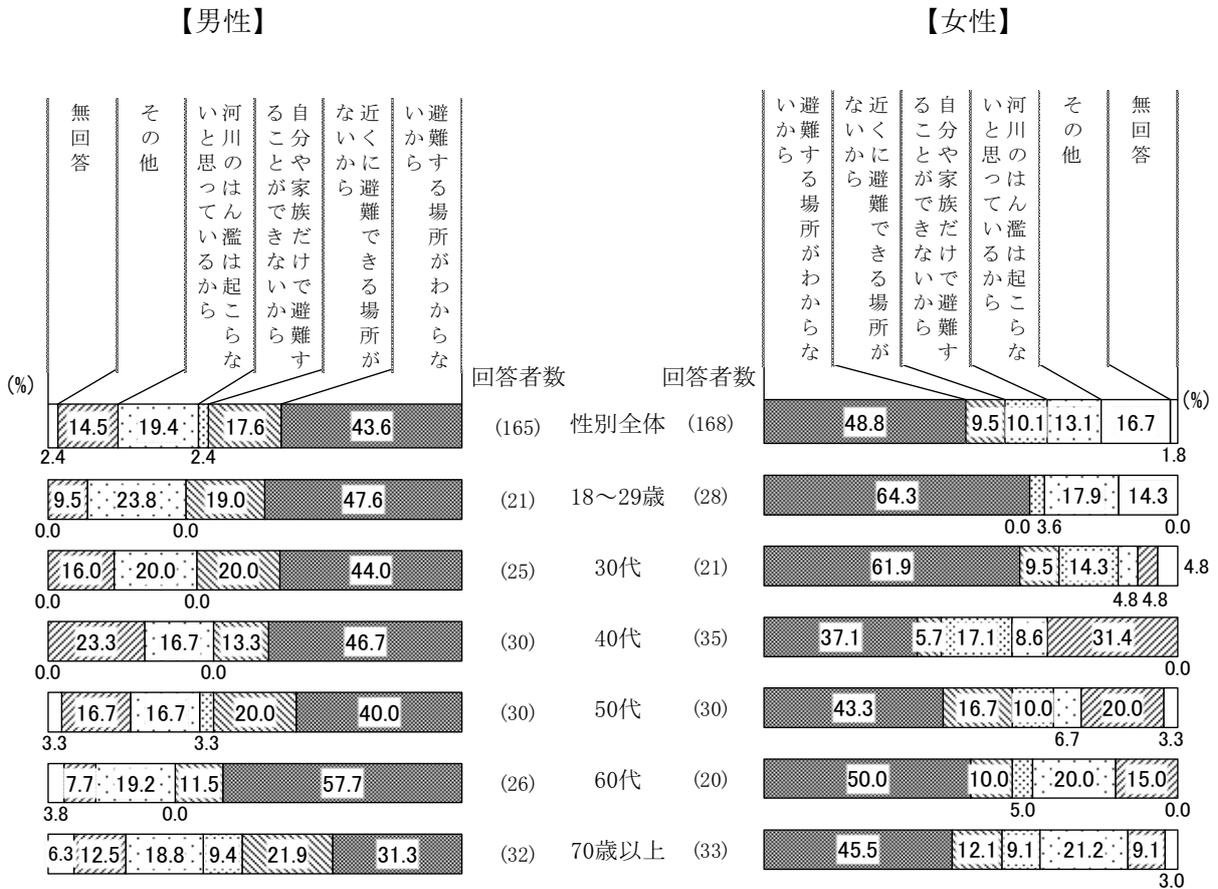
図3-4-2 地域別／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由



性別にみると、「近くに避難できる場所がないから」は男性（17.6%）の方が女性（9.5%）より8.1ポイント高く、逆に「自分や家族だけで避難することができないから」は女性（10.1%）の方が男性（2.4%）より7.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、男女とも30代以下と60代でサンプル数が少ないことからあくまで参考値ながら、「避難する場所がわからないから」は女性の30代以下で6割台と高く、男性の70歳以上と女性の40代で3割台と低くなっている。一方「河川のはん濫は起こらないと思っているから」は男性の30代以下と女性の60代以上で2割台と高く、女性の30代～50代で1割未満と低くなっている。

図3-4-3 性別、性・年代別／河川はん濫時の避難場所を決めていない理由



(5) 河川はん濫による浸水被害の際の対処

■「避難する」は〈区から避難指示が発令〉が7割弱、〈自宅付近が浸水〉が6割台半ば

問12 河川がはん濫して、浸水被害になるような大洪水が迫っている場合、以下のア～カまでの情報を知ったとき、あなたは避難しますか（自宅内の高い場所への移動も含む）。
 (○はそれぞれ1つずつ)

図3-5-1-① 経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処

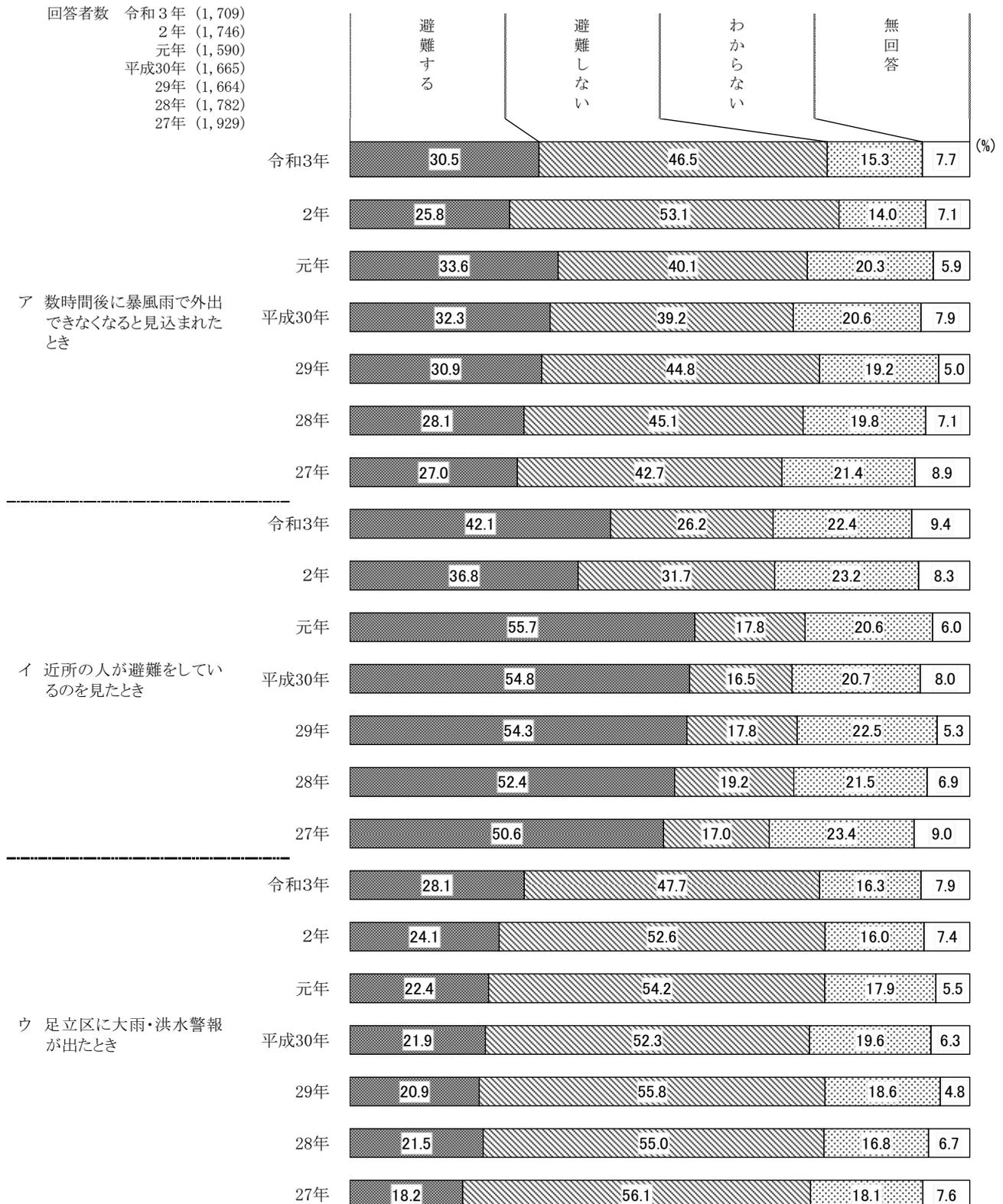
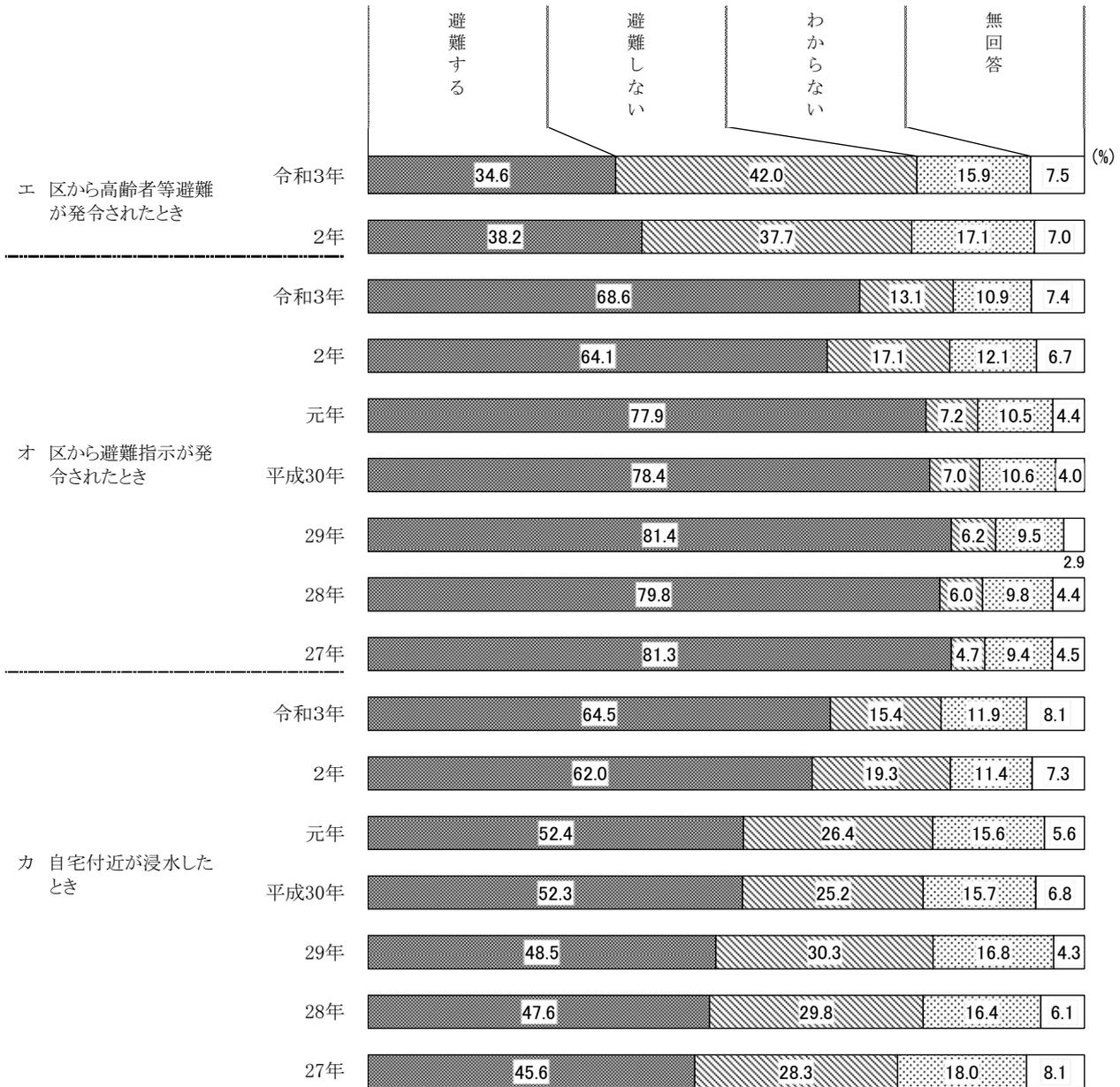


図3-5-1-② 経年比較／河川はん濫による浸水被害の際の対処



※「エ」は令和2年度からの新設項目。令和2年度の「区から避難準備・高齢者等避難開始が発令されたとき」から令和3年度で表現をかえた。
 ※「オ」は令和2年度の「区から避難勧告・指示が発令されたとき」から令和3年度で表現をかえた。

河川がはん濫して、数メートルの浸水被害になるような大洪水が迫っていると仮定した場合、どのような情報を知って避難するかをア～カの6項目について質問した。

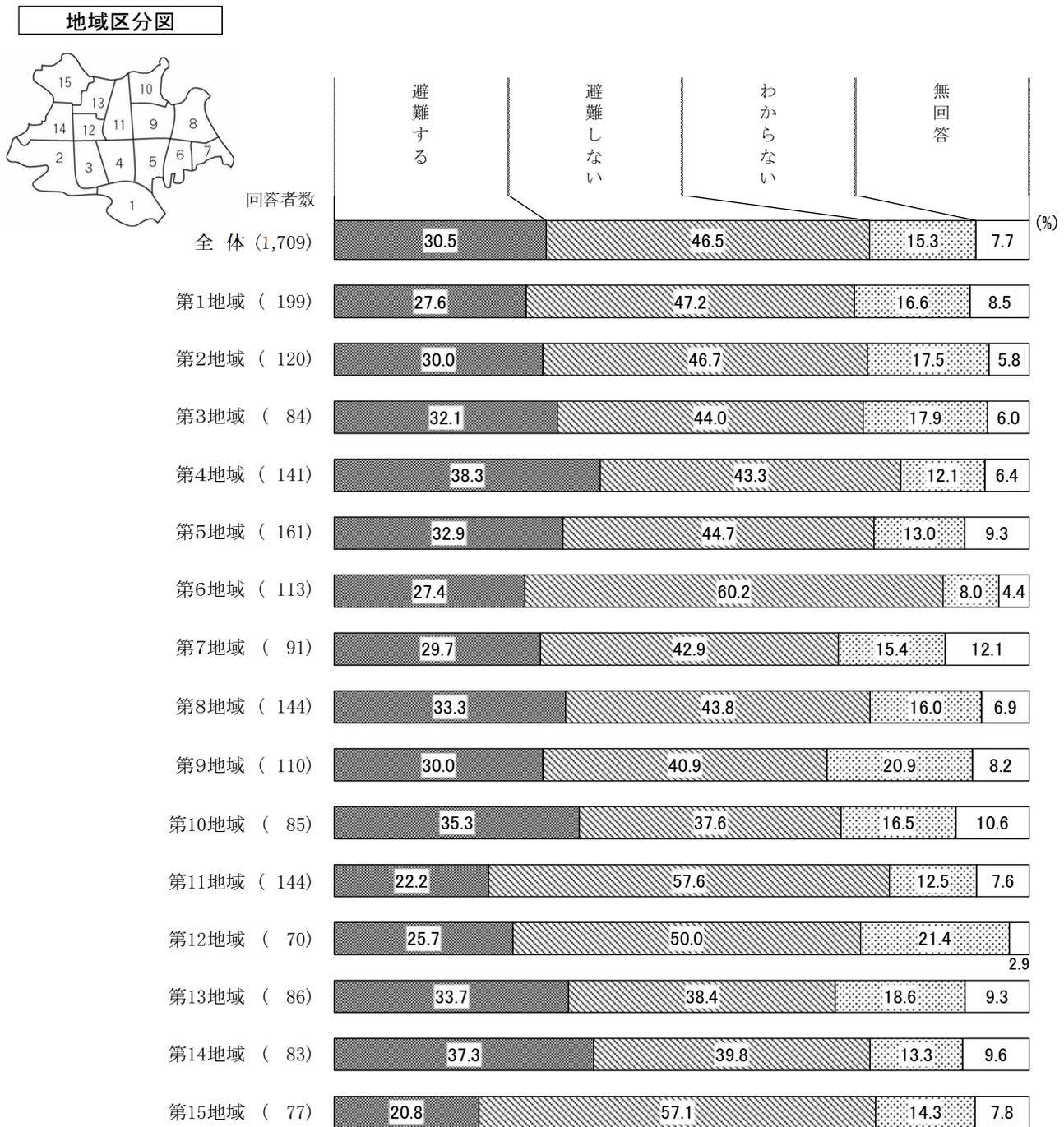
「避難する」の割合が多い順にみると、〈オ 区から避難指示が発令されたとき〉が68.6%で最も高く、次いで〈カ 自宅付近が浸水したとき〉(64.5%)、〈イ 近所の人が避難をしているのを見たとき〉(42.1%)、〈エ 区から高齢者等避難が発令されたとき〉(34.6%)などとなっている。

「避難する」を前回調査との増減でみると、〈イ 近所の人が避難をしているのを見たとき〉が5.3ポイント増で最も大きく、次いで〈ア 数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉(4.7ポイント増)となった。一方で〈エ 区から高齢者等避難が発令されたとき〉が3.6ポイントの減少となっている。

第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

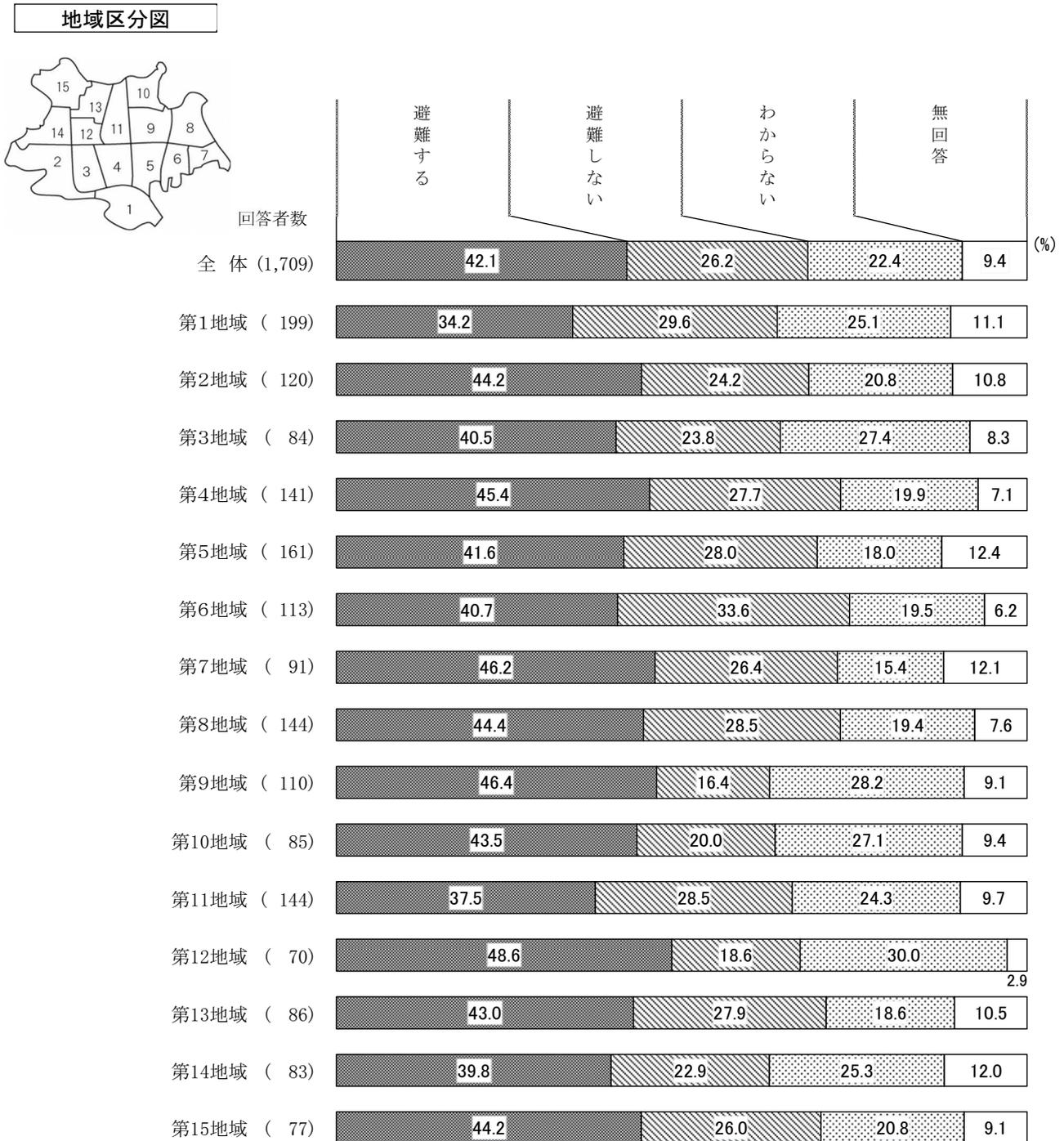
〈ア 数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき〉について地域別でみると、「避難する」は第4地域で38.3%と最も高く、次いで第14地域（37.3%）となっている。一方、「避難しない」は第6地域で60.2%と最も高く、次いで第11地域（57.6%）となっている。

図3-5-2-① 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処
／数時間後に暴風雨で外出できなくなると見込まれたとき



〈イ 近所の人が避難をしているのを見たとき〉について地域別でみると、「避難する」は第12地域で48.6%と最も高く、次いで第9地域（46.4%）となっている。一方、「避難しない」は第6地域で33.6%と最も高く、次いで第1地域（29.6%）となっている。

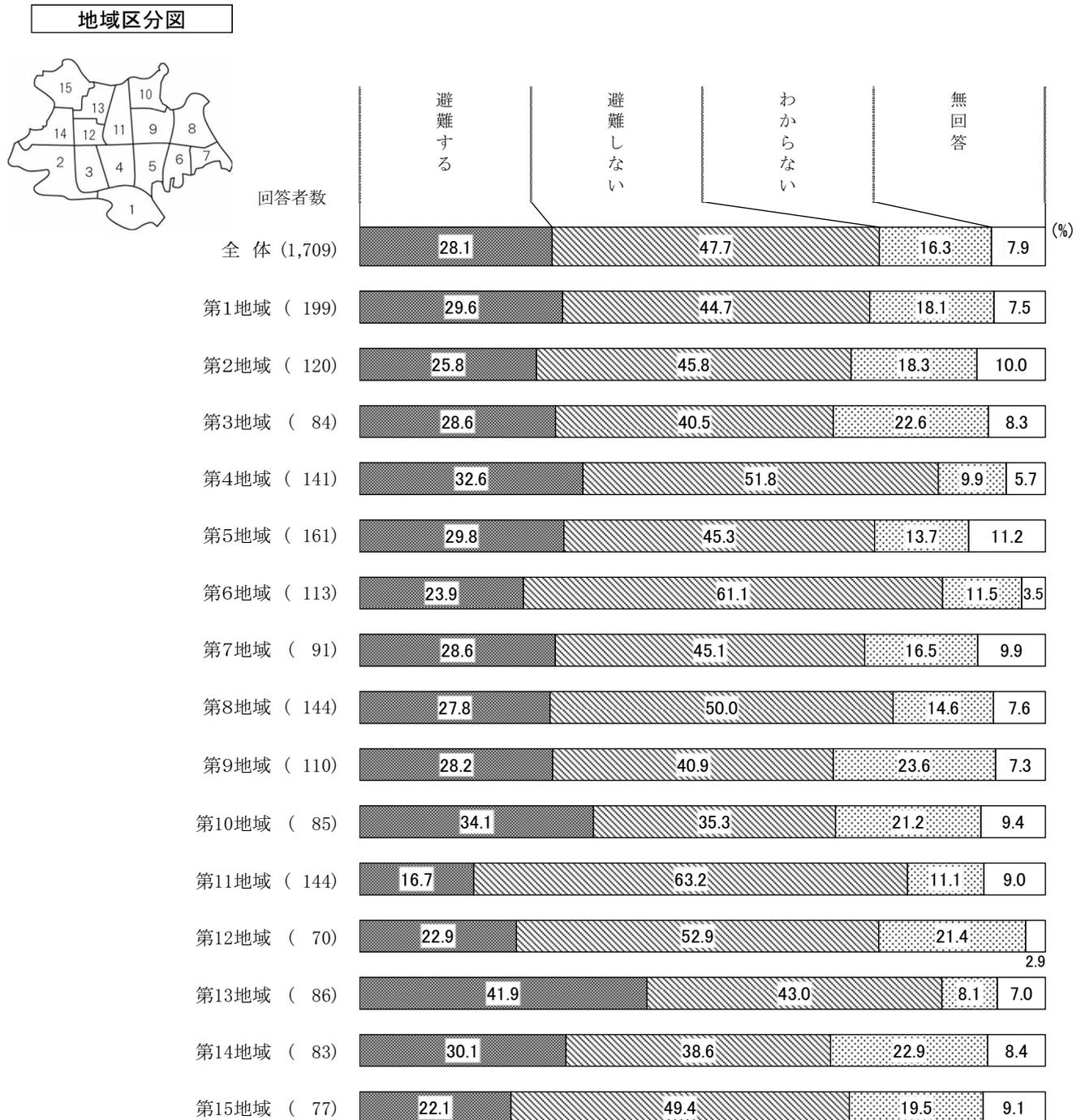
図3-5-2-② 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処
／近所の人が避難をしているのを見たとき



第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

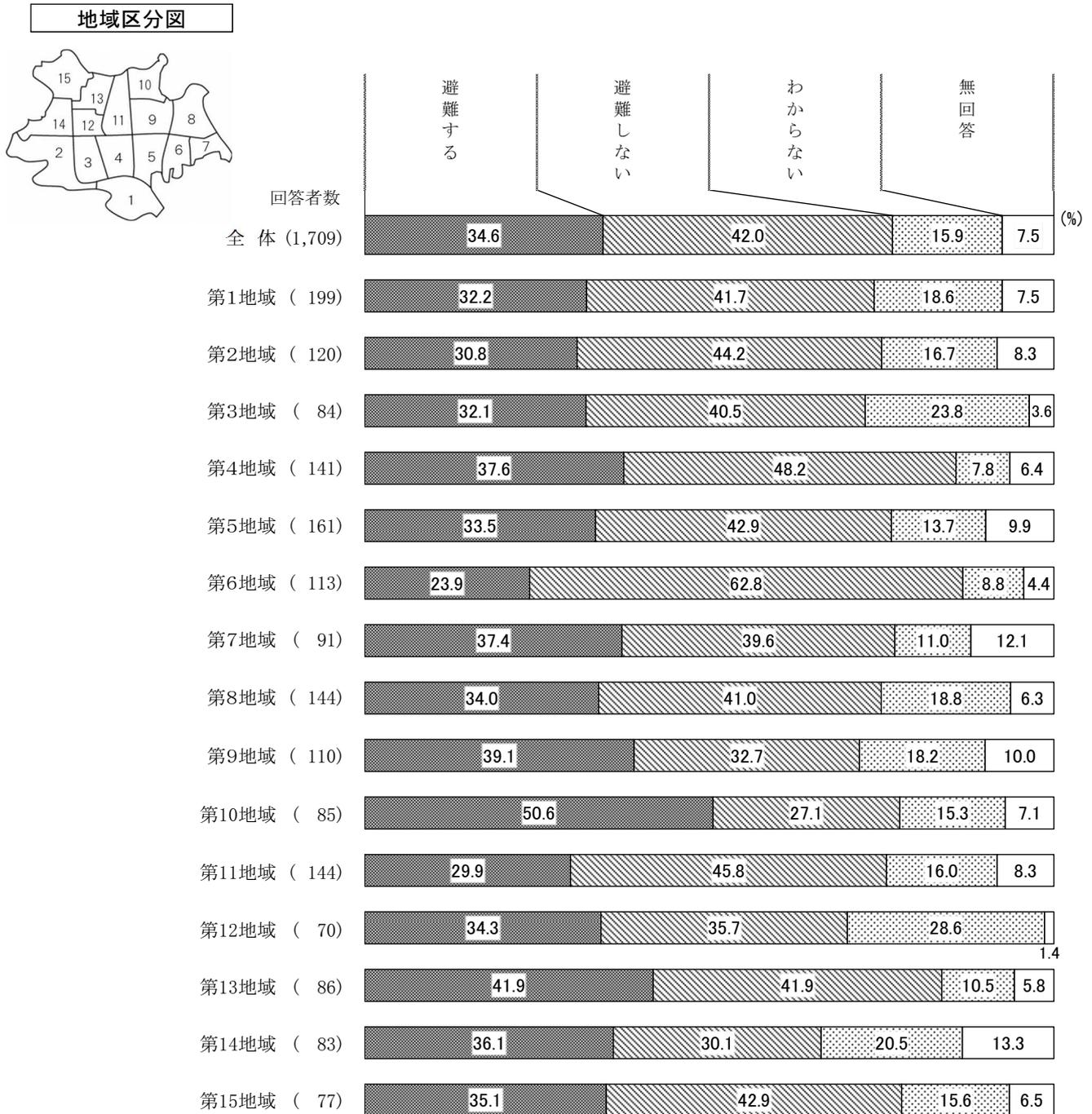
〈ウ 足立区に大雨・洪水警報が出たとき〉について地域別でみると、「避難する」は第13地域で41.9%と最も高く、次いで第10地域（34.1%）となっている。一方、「避難しない」は第11地域で63.2%と最も高く、次いで第6地域（61.1%）となっている。

図3-5-2-③ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処
／足立区に大雨・洪水警報が出たとき



〈エ 区から高齢者等避難が発令されたとき〉について地域別でみると、「避難する」は第10地域で50.6%と他の地域に比べ特に高く、次いで第13地域（41.9%）となっている。一方、「避難しない」は第6地域で62.8%と他の地域に比べ特に高く、次いで第4地域（48.2%）となっている。

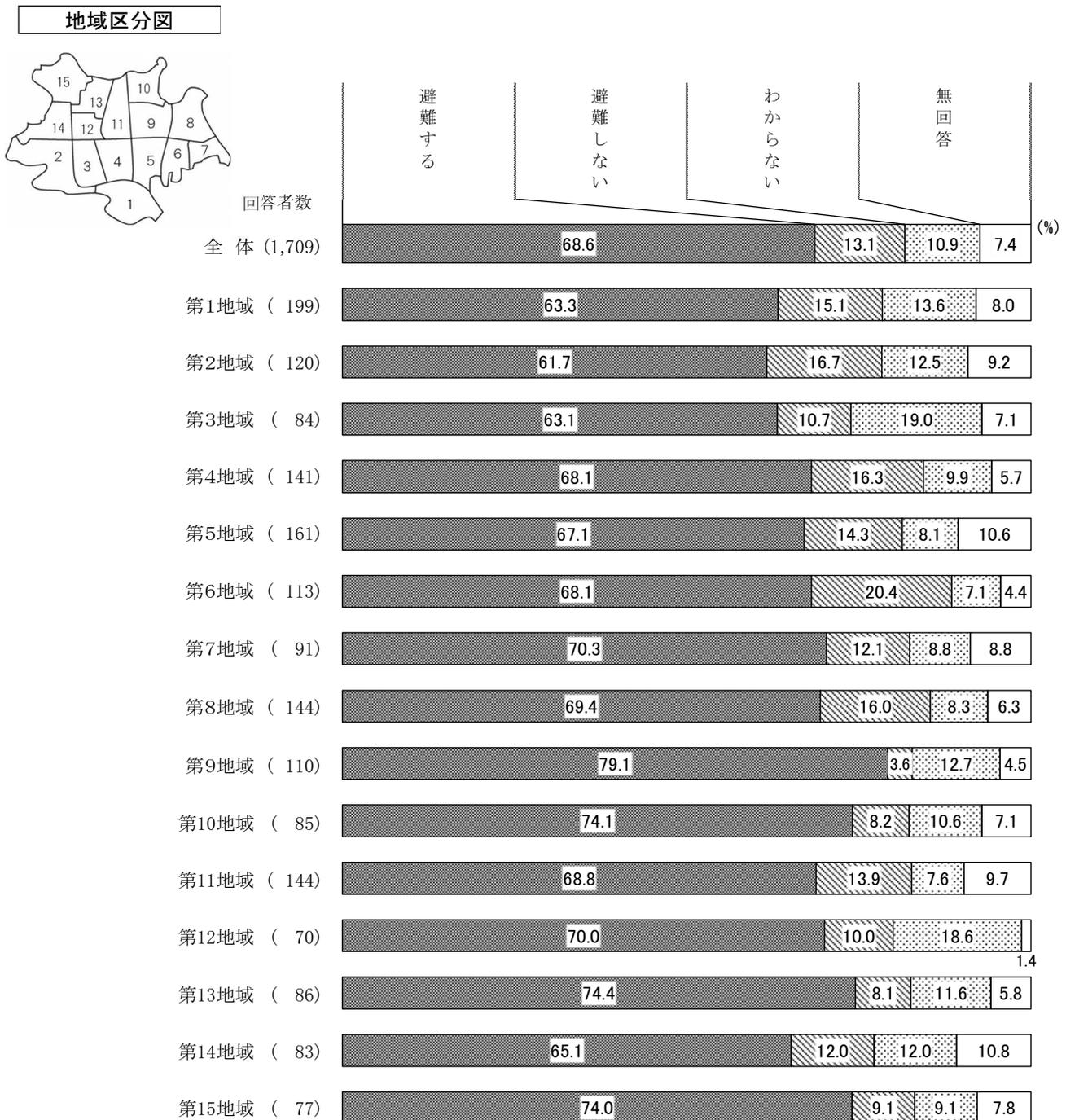
図3-5-2-④ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処
／区から高齢者等避難が発令されたとき



第3章 調査結果の分析 〈洪水対策〉

〈オ 区から避難指示が発令されたとき〉について地域別でみると、「避難する」は第9地域で79.1%と最も高く、次いで第13地域（74.4%）となっている。一方、「避難しない」は第6地域で20.4%と最も高く、次いで第2地域（16.7%）となっている。

図3-5-2-⑤ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処
／区から避難指示が発令されたとき



〈カ 自宅付近が浸水したとき〉について地域別でみると、「避難する」は第9地域で73.6%と最も高く、次いで第8地域（72.9%）となっている。一方、「避難しない」は第11地域で24.3%と最も高く、次いで第6地域（23.0%）となっている。

図3-5-2-⑥ 地域別／河川はん濫による浸水被害の際の対処
／自宅付近が浸水したとき

